

杉村楚人冠記念館



杉村楚人冠。てたれ?

時代を先取りした先人

杉村楚人冠は、明治時末期から昭和初期にかけて日本の新聞界で大活躍しました。記事を書くことはもちろん、新しい仕組みを取り入れたり、新聞学を作って記者を育てたりと、新聞事業に多大な足跡を残しました。また、読みやすくユーモアにあふれたその文章から名文家として知られ、多くのエッセイやコラムを書いています。

交通めんない

JR常磐線・成田線我子系駅 南口下車徒歩9分

東京方面から JR常磐線快速利用

上野から 34分

北千住から 23分



書齋について

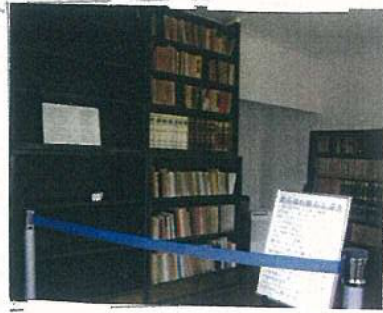
The Haven
Abiko, Chiba-ken

書齋には刻印木幾があって昔手紙を書く時

上のような「The Haven Abiko Chiba-ken」というのを入れました。これを入れると「杉村さんから手紙が来た」となるといふことがあつたので「そうてす」



書齋には本がいっぱいでした。すこゝむすかしを本がいっぱいありました。ここは新聞を書いたり、本を読んだりする場所です。



電話室について

電話は昔、とんなになかった。今の電話とちがってダイヤルもなく、いきなりかけると、まず、こうかん台という場所につながって、そこで電話番号を言います。

電話のための部屋もあってトイレの近くにありました。今ではけいいたい電話でどこでもできます。



サンルーム

サンルームはおひさまがあたる部屋であつたが、あたがい南むきになっている



サロン

サロンは洋室で、お客さんが来たときあつまる場所で、いしんが来ても本などがあつたおれないうようにかたにくついでいます。

楚人冠の胸像、交流のあったジャーナリストの肖像画など、多くの記念品がかざられています。

和室

和室は床の間があつてかけじくがかけられてあつた。火戸があつてお湯をわかしてま。ちやをたてた。地しん対さくに気をつけている部屋